

「ホスピタルアート」の役割と 良質なアウトカムに期待



フォーラムには地域の看護科員150人が参加した



互恵総合病院の奥村祥二院長

「気づきやセンスメイクを
含んで書いて仕組みづくり」
医療の現場において安全管理シ
ステムの構築は重要課題とされて
いるが、パソコンやタブレットが
ついても、システムエラーやヒューマン
エラーは発生し続けているのが現
状だ。こうしたなか、リスクマネ
ジメントを徹底させるには、気づ
きやセンスメイクが必要であ
るとも考えられている。

そこで今回は、近頃よく上す
る「デザイン思考」デザインシ
ステムの観点から医療安全システ
ムをデザインする手法や事例、そ
の効果などの情報、基調講演と
シンポジウムの開催構成を兼ね、医
療安全の重要性や「TQM」の
導入の実態など、盛りだくさんの
コンテンツが盛り込まれた。



基調講演で登壇した大阪市立大学医
学部附属病院の山口俊子氏

山口氏は冒頭で「安全はあると
きりもならないときに定義され
て測定される」と切り出し、一方
で医療現場の課題として、事故が
発生しはじめて安全を意識する
という点を指摘し、「現代の医療の
質・安全に対する考え方や、新し
い医療デザインについて語った」
。このなかで「安全のために取り
組むべきことは安全対策ではなく、
職員を育成できる組織（システム）
をつくること」と強調、そのカギと

PHASE3 フェイススリー July 2019 vol.419

最新医療経営

経営時代の羅針盤



特集

医師の タスクシフト・ タスクシェア 「働き方改革」成功のカギ!!

社会医療法人若竹会
つくばセントラル病院 変遷年々



特別対談
医療経営士
「実地研究講座」
開講記念
真野俊樹
神野正博



「予」から「コト」へ移行
シンポジウムでは、医療安全化
をデザインする（デザイン）に、大阪
医科大学附属病院医療安全対策室
長の村仁氏、近畿大学文学部
文化デザイン学科教授の山口俊
子氏、社会医療法人若竹会

酒向正春
「地域協働で患者の一生を支える」
「ホスピタルアート」は、皆々
達と共有し、

「ホスピタルアートの環として
アートディレクターに期待
パネルディスカッションでは、シ
ンポジウム司会者、基調講演で演
講を務めた山口氏、互恵総合病
院の奥村院長が加わり、

仙台オーブン病院
公益財団法人 仙台市保健センター
仙台市保健センター 仙台市保健センター

担当部長の坪茂典氏がシンポジスト
として登壇、部長は、上尾中央病
院院長の佐々木、情報管理部長の長谷
川剛氏が務めた。

ある点で述べ、実際に「ホスピタル
アート」を導入した病院の事例を話し
た。

人のアートディレクターを雇用して
いる互恵総合病院の取り組みにつ
いて、奥村院長はこう語った。

「当院はアート年間1,000万
円単位の費用を費やしているが、
単に院内に絵画などを飾るだけで
はない。アートディレクターは、イ
ベント企画や院内の問題解決の
ための情報収集などの役割も担っ
ている。ホスピタルアートが最も
「患者様の幸せに向け、より良質
なアウトカムにつながる」とい
くを期待している。

「最新医療経営7月号」に 5/18「患者安全推進地域フォーラム」 みみはらホール開催の記事が掲載されました